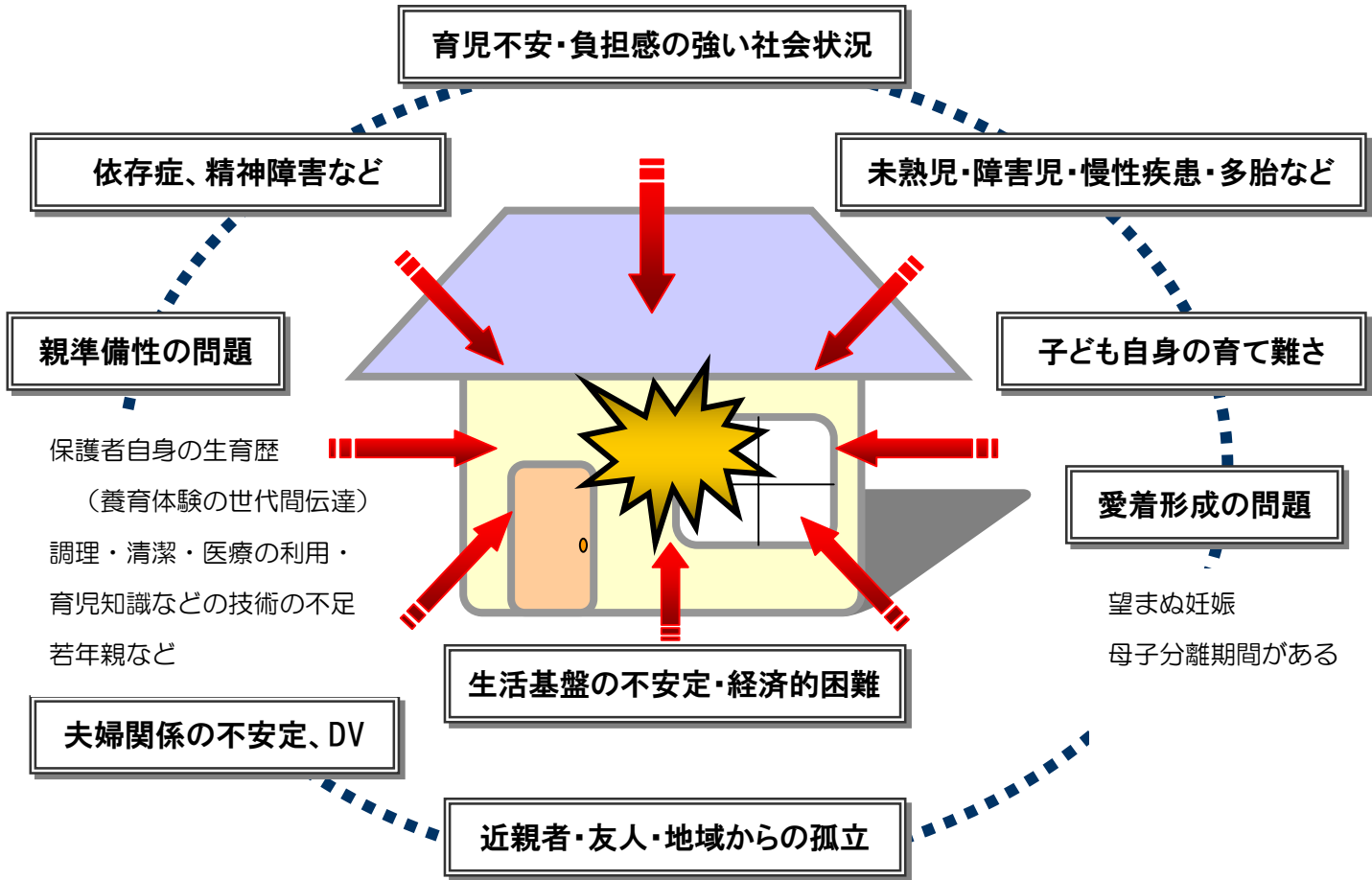


児童虐待が生じる家族

児童虐待が生じる家族は、保護者の人格特性・経済状態・就労・夫婦関係・住宅事情・医療や健康上の課題・子どもの発達特性等々、実に多様な問題を抱えています。それらの問題が絡み合い複合し、家庭内に生じた家族全体のストレスが、最も弱い立場の子どもに向かうというのが、虐待の生じるメカニズムです。児童虐待は、家族の構造的背景から生じるのです。

1. 児童虐待の生じるハイリスク要因

虐待の生じるハイリスク要因は、以下に挙げるように様々です。しかし、これらのハイリスク要因一つだけで、虐待が生じることはありません。児童虐待のハイリスク要因があるからといって、その家族を色眼鏡で見ることはあってはならないのです。



2.虐待の慢性化の背景

虐待の生じる家族構造が一度できてしまうと、家族は自ら問題解決を図ることができず、周囲からの働きかけにも、スムーズに応じることができなくなることがあります。

このようようなときに、保護者に対して「親なのだから」と反省を迫るだけの叱るような働きかけをすることは、家族を地域内でより孤立させることになってしまいます。そうすると、周囲の目がより家庭内に届かなくなり、虐待は進行・慢性化します。時には、「反省」が保護者の精神状態を悪化させ、虐待のエスカレート・転居・証拠隠滅を引き起こすこともあります。

また、家族とかかわりを持っている機関や個人が、自分の力だけで何とかしようとして問題を抱え込むことも、構造的背景をもつ虐待の解決には、逆効果です。